
冷めたホットケーキ

阿波野治

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

冷めたホットケーキ

【Nコード】

N3328Q

【作者名】

阿波野治

【あらすじ】

毎週日曜日になると、高崎ママは一人娘のユキちゃんのためにホットケーキを作ります。午後三時を回り、ユキちゃんがお外から帰ってきましたが……ユキちゃんの様子がなにやら変です。

時計の長針は午後の三時を回りました。閑静な住宅地の一画にある高崎家の開かれたキッチンの小窓からは、甘あいお菓子匂いが漂っていました。

窓からキッチンを覗いてみると……わあ、美味しそう！ たった今、高崎さん家のママが、ホットケーキを焼き終えたところでした。高崎ママは料理を作るのがとっても上手！ 中でもお菓子作りが大好きで、日曜日になると必ずホットケーキを作ります。ホットケーキは、ママの一人娘のユキちゃんの好物。ママはユキちゃんのために毎週欠かさずホットケーキを作っているのです。

キッチンに焼けた円形の生地をフライ返しですくって、滑らせるようにしてお皿に装います。それから四角いバターをのせて、甘あいハチミツをたっぷりかければ、はい、出来上がり！ ママお手製のホットケーキの完成です。

ちょうどその時、玄関のドアが外側から静かに開いて、小さな人影が家の中に入ってきました。お外で遊んでいたユキちゃんが帰宅したのです。ユキちゃんの衣服は上下共に泥だらけで、スカートの内側から垂れた一筋の血が太股を伝っています。

あれあれえ？ ユキちゃんってば、一体どうしたの？

「ママあ。公園で一人で遊んでたらね、知らないおじさんにイタズラされた」

あらあら。何か悲しいことでもあったのかな？ ユキちゃんは丸いお目々いっぱい涙を溜めて、声を精一杯張り上げて訴えます。「ユキーっ。早く手を洗ってきなさい。ホットケーキ、今焼けたばかりだから」

ダイニングからママの声が聞こえてきました。とっても上手に作れたホットケーキを、出来立ての熱々のうちに食べてもらいたいと思うのは作り手として当然のことですから、ママがそう急かしたの

も領けます。

でも、ユキちゃんはまだ言い足りないことがあるみたい。依然としてその場に立ち尽くしたまま、震える声で言葉を紡ぎます。

「そのおじさんに茂みまで連れて行かれてね、ここでオシッコしろって言われたの。それでね、恥ずかしいから嫌だって言ったら、おじさんにパンツ脱がされたの。それで、お股触られて、すごく痛かった。血も出たんだよ」

「何やってるの。早く靴を脱いで上がってきなさい。お腹空いてるんでしょ？ 手を洗うのを忘れずにね」

ママがドアからひよっこりと顔を覗かせて、愚図るユキちゃんを促しました。だけどユキちゃんは、潤んだ瞳をママに向けるだけで、その場から動こうとはしません。

ユキちゃんつてば、本当にどうしちゃったの？ どこか痛いのか？ 何か困ったことがあったの？ 黙ってちゃ何も始まらないよ。言いたいことがあるんだったら、ちゃんと口に出して伝えないと！

ほら、ちゃんと意思表示をしないから、ママの手を患わせることになっちゃった。ママはしょうがない子ねという風に溜息をついて、ユキちゃんのもとへと歩みを進めます。

「ママ、聞いて。ユキの話、ちゃんと聞いて。あのね、ユキね、公園で……」

「はいはい、話なら食べながら聞いてあげるから。ほら、早くしないと冷めちゃうわよ」

ママはユキちゃんの靴を脱がせると、手をとってリビングの方に引っ張っていきます。

「ママ、待って。あのね、あのね……」

あらあら！ ユキちゃんったら、ママの手を引っ張り返して、あくまでその場から動こうとしないみたい。「話はあとで」ってママは言ってるのに、そんなワガママをしたらダメだよ。ママの言うことはちゃんと聞かないと！

ほおら。優しいママも、流石に我慢の限界みたい。柔らかだった

表情が、声が、次第に険しくなっています。

「話はおやつ食べながら聞くって言ってるじゃない。ほら、早く来なさい。熱いうちに食べないと美味しくないわよ」

「だからね、ママ、ユキね——」

「ああ、もう！ 全く何をやってるのかしら、この子は。そんなに食べたくないなら、無理して食べなくてもいいわよ。ママ、もう知らないからね！」

あーあ、やっちゃった！ ママはとうとう怒り出して、ユキちゃんをほったらかしにして一人でダイニングに戻ってしまいました。ほらね、ユキちゃん、だから言ったでしょ？ ママの言うことはちゃんと聞かなきゃダメだって。

玄関に一人取り残されたユキちゃんは、その場にぺたりと座り込むと、わんわんと泣き出してしまいました。大好きなママに怒られちゃったのだから泣きなくなる気持ちも分かるけど、言うことを聞こうとしなかったユキちゃんも悪いよ。

ママは優しいから、ちゃんと謝りさえすれば、ユキちゃんのこときつと許してくれて、大好きなホットケーキも食べさせてくれるよ。でも、残念だけど、熱々だったホットケーキはもう冷めちゃってるね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3328q/>

冷めたホットケーキ

2011年1月26日14時35分発行